

矢作川流域圏懇談会通信

全体会議 vol. 1



発行日：平成 30 年 3 月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 7 回全体会議を開催しました！

3 月 20 日（火）に矢作川流域圏懇談会第 7 回全体会議を開催しました。本年は流域圏懇談会の 3 サイクル目の 2 年目あたり、年間の活動成果と活動方針について意見交換を行いました。今年度は、さらに平成 30 年度以降の懇談会の体制について、事務局が提示され、意見交換を行いました。

日時：平成 30 年 3 月 20 日（火）14:30～16:30

会議場所：西三河総合庁舎 10 階 大会議室

参加者：86 名（事務局含む）



◆主な会議内容

1. 確認事項（懇談会の運営方針、各部会の活動進捗、流域連携テーマ・イベントに関する成果）

■懇談会の運営方針

懇談会は、3年に1サイクルで総括を行いながら運営している。今年度は、3サイクル目の「課題解決に向けた取り組み実行（実証）」の2年目を迎え、各部会WGに加え、流域連携テーマ・イベントにも積極的に取り組んだ。

■各部会の活動進捗

- 山部会：「山村再生担い手づくり事例集」「山村ミーティング」「森づくりガイドライン」「木づかいガイドライン」の4つのテーマを議論した。その中で、山村再生担い手づくり事例集では、流域を見据えた活動とするため、川部会の地先モデルと連携して、川の関係者にも取材を行うことになった。そのため、テーマの名称を「流域圏担い手づくり事例集」に変更した。
- 川部会：「本川モデル」「家下川モデル」「地先モデル」の3つのテーマを数回ずつに分けて議論した。現地視察は、時瀬の給砂実験箇所、阿摺ダム下流のアユの生息環境改善実験、河道内の土砂掘削・樹林伐採、加茂川水門下流の堰上げ式魚道、家下川湛水防除事業に関して行った。また、地先モデルでは、山部会と協働して流域圏担い手づくり事例集を作成した。
- 海部会：「ごみ・流木の問題」「豊かな海の生物調査」「海と人の絆再生」「干潟・ヨシ原再生」の4つのテーマについて議論した。22世紀奈佐の浜プロジェクト委員会主催の「藤前干潟エクスカージョン」、海の生物資源の減少問題、東幡豆における造成干潟の観察を通して、環境面における海の現状を把握した。

■流域連携テーマ・イベントに関する成果

流域連携テーマである「ごみ・流木」「土砂」「木づかい」に関しては、主に個別ワーキングの中で取り扱われ、その成果が市民会議の中で議論された。また、流域連携イベントとして、「事例集交流会2017」「2017矢作川感謝祭」「海ごみ減らそうフォーラム」に参加出展し、流域圏一体化の活動に貢献したことが周知された。

2. 協議事項①（次年度の各部会の活動方針、流域連携テーマに関する活動方針、河川整備フォローアップについて）

■今後の運営方針と各部会の活動方針

●今後の運営方針

- ・懇談会は、3年に1サイクルで総括を行いながら運営をする。来年度は、3サイクル目の最終年となる。

《山》流域圏担い手づくり事例集では川部会、海部会を巻き込んだ流域全体の担い手を発掘する。山村ミーティングでは林業担い手100人ヒアリング、矢作川感謝祭を進める。森づくりガイドラインでは、国に惑わされることのない地域に密着した森づくりの指針を示す。木づかいガイドラインでは、矢作川の流域材を活用した楽しい「木のある暮らし」を定着させる。

《川》本川モデルでは加茂川水門下流の段差改善を目的とした魚道、総合土砂管理、河川整備対策に対する事業者との意見交換などを継続する。家下川モデルでは家下川湛水防除事業における進捗状況モニタリングとひょうたん池の水量確保・水質改善方法などを検討する。また、地先モデルは流域圏担い手づくり事例集との協働、豊田市水辺まち作り計画の情報共有を行う。

《海》三河湾のアサリの資源回復に関する現状の課題について認識を共有し、課題解決に向けた取り組みを検討する。

■流域連携テーマ・イベントに関する活動方針

- ・ひきつづき「ごみ・流木」「土砂」「木づかい」の3つのテーマに加え、流域連携に関するイベントの開催について市民部会、地域部会、合同部会などで取り組む。

■河川整備計画フォローアップについて

- ・河川整備計画の中で、以下の項目で矢作川流域圏懇談会が関わってきた。今後も、情報の提供や共有を図りながら進めていきたい。
(1) 治水（現地での意見交換や見学）(2) 利水（情報提供等）(3) 環境（勉強会・現地でのヨシ植え）(4) 土砂管理（勉強会等）



◆主な会議内容

(・意見 ▶回答)



3.確認事項② (平成 30 年度以降の懇談会の体制について)

■市民会議における意見

市民会議では個人や市民団体から「山川海の横のつながりも増加し、実績はかなり上がっている」「ここから先は、もちろん地域部会(個別WG)も大切であるが、部会どうしの横のつながりが大切だ」などの意見があがった。

■体制図(案)

市民会議や個別WGの意見をふまえ、事務局案として右図の体制案を示す。ここでは、これまでの地域部会(座長:有識者)と対等な関係に、市民が主体となる市民部会(座長:市民)を設置して、流域連携テーマやイベントを話し合う場とする。

■スケジュール案

体制案をもとに、次年度のスケジュールを右表のように示す。

- ・「市民部会」は12月までに3回程度実施し、流域連携テーマやイベントについて議論を行う。
- ・「地域部会WG」を設け、内容に応じて開催する。市民部会も地域部会も総括として「まとめの会」を1月に実施する。
- ・各WGの中で、平成31年度以降何をやっていくかについて意見交換を行い、部会ごとにとりまとめる。
- ・「合同部会」は12月までに2回程度設け、抽出されたテーマに対して議論を行う。
- ・全体会議を2月に設け、一年の成果と今後の課題を話し合う場とする。
- ・流域連携イベントは、今年度実績である「事例集交流会」「矢作川感謝祭」「三河湾大感謝祭」を想定している。

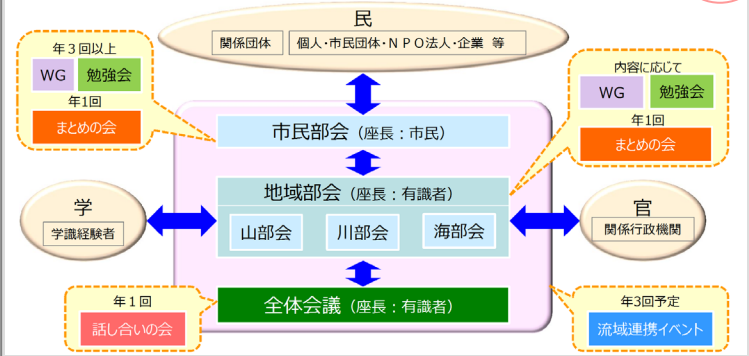


図 平成 30 年度以降の懇談会の体制(案)

表 平成 30 年度以降のスケジュール(案)

体制・イベント	月											
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	
市民部会												
WG 勉強会												
まとめの会												●
地域部会・合同部会												
WG 勉強会												
まとめの会												●
全体会議												★
話し合いの会												
流域連携に関するイベント	○						○	○				

◆話し合いでの主な意見

確認事項・協議事項に対する意見



■確認事項(懇談会の運営方針、各部会の活動進捗、流域連携テーマ・イベントに関する成果)

- ・これまで「山村再生担い手づくり事例集」としていたものが「流域圏担い手づくり事例集」と名称を変えた。川部会の協力のもと取材先の約半分が川の担い手である。山と川の連携という形では大きく進展したと思う。(蔵治)
- ・今年度は現地での視察が充実していた。それに対しては特に行政の皆さまのご協力があり、大変助けられた。例えば、阿摺ダムの下流のソジバ、矢作ダム下流の給砂実験など、最新の話題をご提供いただいた。(内田)
- ・懇談会も8年を迎えるが、海の環境は我々が想像するものとかかなり違うことに気付かされた。アサリなどの生物には、生息の場所を作るだけではだめだということ。餌環境や栄養分のコントロールも重要なことであることがわかった。今後の活動を続ける中で、もう一回見つめ直すことが必要だと感じた。(青木)

■協議事項①(次年度の各部会の活動方針、流域連携テーマに関する活動方針、河川整備フォローアップについて)

- ・海部会だけ少し方針変更するということがだが、副座長からの補足をお願いしたい。(辻本)
 - これまでの4つのテーマ(「ごみ・流木の問題」「豊かな海の生物調査」「海と人の絆再生」「干潟・ヨシ原再生」)についても関わっているとは思っている。ただ、一番の関心事は「このままでは三河湾はダメになるのではないか」というところまできている。反面、さまざまなデータも蓄積されつつあるので、「豊かな海の再生」に絞ろうと考えた。(青木)
- ・豊かな海の再生では「アサリ」を対象としている。ただ、アサリのすぐ上流域では「ヤマトシジミ」の生息地となっているため、川部会の皆さんとも一緒に考える必要がある。(井上)
- ・山の栄養塩類がそのまま海に流れるのが理想だが、現実には住宅地や工場から出たものが、処理場で過剰に削減されている。今、海が疲弊していることを、この場を借りて申し上げたい。(高橋)
 - アサリと書いてしまうと、あたかも海だけの問題だと認識してしまう。ヤマトシジミにおいても同様の問題があるだろうし、上流域も関わっていることを認識してもらいたい。(辻本)
 - 大きな問題だと感じた。そこで、是非大学で取り上げてもらったり、山の木を持ち込んだりして流域全体が解決に向けて検討する必要があると感じた。(今村)

■協議事項②(平成30年度以降の懇談会の体制について)

- ・現在、個別部会の共通課題としてメンバーの固定化がある。新しく設置される市民部会は、形式に拘らないスタンスなので、懇談会に興味を持つ市民を増やせるのではないかと期待している。(洲崎)
 - 先ほどのアサリを語る場合は、専門的な知識を持った人々と気さくに話せる市民との融合が必要だ。この両面を含めようとするとかなり難しいと思われる。(辻本)
- ・一般市民に対していきなり課題といっても、議論の輪には加わらないと思う。一般市民を巻き込むためには、楽しいとか得る物があるというお土産が必要だ。木づかいではプレイスメイキング(場所のかづくり)という言葉を用いているが、そういった楽しさを伝えるのが矢作川流域圏懇談会だと思っている。(今村)
- ・それでは、来年度この体制、スケジュールを試行してみるということで、事務局案を承認したいと思う。(辻本)

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 松山、副所長 末松
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100 調査係長 服部

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ijinet.or.jp)までお送りください。

